

## 【基本理念】誰もが気軽にスポーツに親しみ、交流できるまち川越

次期総合計画の考え方 次期総合計画（案）における施策の方向性	次期川越市スポーツ推進計画の体系		具体的な事業のパッケージ	考え方
次期総合計画の考え方 次期総合計画（案）における施策の方向性	基本目標	施策	具体的な事業のパッケージ	考え方
1 誰もが文化芸術やスポーツを身边に感じられるよう、様々な文化芸術やスポーツを気軽に鑑賞・体験できる機会の充実を図ります。  2 文化芸術活動やスポーツを、楽しみながら意欲的に続けることができるよう、文化芸術活動の発表機会やスポーツ大会、イベントなどの充実を図ります。	スポーツを楽しむ機会の充実  文化芸術・スポーツに親しむ機会の充実  スポーツによる健康づくりの推進	多様なスポーツ大会・教室の開催	<ul style="list-style-type: none"> <li>運動やスポーツを始める機会の提供、きっかけづくりとなる大会や教室の開催</li> <li>スポーツ大会・教室の種目や内容のブラッシュアップ</li> </ul>	従前より、スポーツにかかる大会や教室を開催しているが、種目の硬直化やマンネリ化が指摘されるところもある。これらの改善を図るものである。 また、スポーツに取り組む導入となるよう、初心者向けの講座を念頭に開催するものとする。
			<ul style="list-style-type: none"> <li>総合型地域スポーツクラブの設置・活用の促進</li> <li>総合型地域スポーツクラブに関する情報の発信</li> <li>総合型地域スポーツクラブの指導者の育成とクラブ間のネットワークづくりの促進</li> </ul>	総合型地域スポーツクラブは、身近な地域でスポーツに親しむことのできる新しいタイプのスポーツクラブで、子供から高齢者まで（多世代）、様々なスポーツを愛好する人々が（多種目）、初心者からトップレベルまで、それぞれの志向・レベルに合わせて参加できる（多志向）、という特徴を持ち、地域住民により自主的・主体的に運営されるスポーツクラブとされる。 現在、本市には、6つの総合型スポーツクラブが設立されているが、うち4団体に関しては、市からの運営補助によって運営が維持されている。総合型スポーツクラブに関しては、これを維持し、また、効果的な活用方法を検討ものとする。また、これらスポーツクラブの運営能力と指導力の向上のため、クラブ間のネットワークづくりを行おうとするものである。
		総合型地域スポーツクラブの活用	<ul style="list-style-type: none"> <li>児童生徒が主体的に運動に取り組む体育・保健体育の授業の推進</li> <li>トップアスリートふれあい事業</li> <li>体育・保健体育科に関する指導力等向上のための研修会</li> </ul>	教育振興基本計画との連携を図るものとして、小中学生の健康の保持増進と体力向上の推進に資するよう取り組むものである。
			<ul style="list-style-type: none"> <li>部活動地域連携・展開の推進</li> <li>部活動指導員を配置による生徒の活動機会の確保</li> </ul>	スポーツに取り組む機契として、中学校の部活動は、重要な意味を持っている。少子化の進展する現状、部活動の地域連携・展開を推進することで、中学部活動を維持可能なものとするものである。 これらの結果として、教員の働き方改革にも資するものとなる。
			<ul style="list-style-type: none"> <li>全国大会、国際大会等に出場する子どもたちの支援</li> <li>各種表彰制度の維持・継続</li> </ul>	スポーツに取り組む子どもたちにとって、日頃の練習の成果を示す場として、スポーツ大会は重要な意味を持っている。 全国大会、国際大会等に出場する子どもたちへの支援や表彰制度は、スポーツに取り組むインセンティブになり得るものである。
		スポーツによる子どもたちの健やかな体及び豊かな心身の育成	<ul style="list-style-type: none"> <li>プロ・トップスポーツ選手による指導機会の創出</li> <li>・ジュニアアスリート育成事業の実施</li> <li>・プロ・トップスポーツチームや選手とスポーツ少年団等の団体との交流促進</li> </ul>	プロ・トップスポーツ選手は、子どもたちの憧れの存在であり、これら選手との交流は、スポーツ実施のインセンティブとなるものである。 また、プロ・スポーツチームにとっては、地域貢献やその種目の競技人口の増加、試合観戦者の増加に繋がるものであり、メリットが存在する。 以上のことから、プロ・トップスポーツ選手による指導機会を確保しようとするものである。
			<ul style="list-style-type: none"> <li>子どもたちの意見を考慮したスポーツ施策の実施</li> <li>・スポーツ活動やプログラムづくりに関するワークショップや意見交換会の実施</li> <li>・計画改定時のアンケート調査や子どもオンライン意見箱の積極活用</li> <li>・子どもの意見を踏まえた教室の開催やイベントの実施</li> </ul>	スポーツ施策に関して、子どもたちの意見表明の機会を与えようとするものである。
		ライフステージに応じたスポーツ環境の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>・プレーパーク等の遊びや野外活動の場の充実</li> <li>・職場や働く世代、女性に向けたスポーツ実施の働きかけ</li> <li>・高齢者の健康の維持・増進、介護予防としての活動機会の充実に向けた取り組みの推進</li> <li>・スポーツによる仲間づくりの促進</li> </ul>	幼児・小学生が遊びや野外活動を通じて体力向上できるよう施策を展開する。 また、運動を行っていない人は、30代から40代で最も高く、女性の40%以上が運動を行っていないとする実態を踏まえ、ここに対する働きかけに言及するものである。 くわえて、スポーツに関する情報の発信を行うことで、スポーツを始める契機とする。 さらに、スポーツを始める契機として、「友人に誘われて」始める方が多い傾向にあるため、スポーツによる仲間づくりの促進を掲げるものである。
			<ul style="list-style-type: none"> <li>・生涯スポーツフェスティバルの開催</li> <li>・ラジオ体操の推進</li> <li>・自主グループ活動を通じた運動の習慣化</li> <li>・ターゲット層を意識したスポーツに関する情報の発信</li> </ul>	長らく取り組んできた人を除き、競技スポーツに取り組むことは、障壁の高いものと考えられる。 まずは、身体を動かす機会を提供することで、運動やスポーツに取り組む契機を提供するものである。 また、健康診査等、ターゲット層を意識したスポーツ情報の発信を行おうとするものである。
			<ul style="list-style-type: none"> <li>・市主催事業への選手の参加、交流イベントやトークイベントの開催</li> <li>・各種イベントへの選手参加のためのマッチング</li> </ul>	市の事業や民間のイベントにプロ・トップスポーツ選手が参加することは、事業・イベント自体の活性化に資することとなる。また、選手との交流を契機にスポーツを実施する誘因となり得るものである。 くわえて、プロ・スポーツチームにとっては、地域貢献やその種目の競技人口の増加、試合観戦者の増加に繋がるものであり、メリットが存在する。

次期総合計画の考え方 次期総合計画（案）における施策の方向性	次期川越市スポーツ推進計画の体系		具体的な事業のパッケージ	考え方
	基本目標	施策		
地域でのスポーツ活動の推進  文化芸術・スポーツを通じた交流の促進  1 各種活動団体への支援や活動を担う人材の育成を進め、文化芸術活動やスポーツを通じた地域交流の促進を図ります。	地域におけるスポーツ活動の充実と多様化  誰もがスポーツにアクセスしやすい環境の整備	・地域のスポーツ・レクリエーションイベントへの支援 ・社会情勢に合わせた既存事業の見直し	少子高齢化の進行、地域のつながりの希薄化、外国籍市民の増加など、地域を取り巻く状況が変化することを踏まえ、スポーツの側面から地域のスポーツ・レクリエーションイベントへの支援を行おうとするものである。また、これらによる生活スタイルの変化に合わせ、既存事業の見直しを図っていくことするものである。	
		日本伝統の武道の継承	・川越運動公園総合体育館や川越武道館におけるスポーツ団体と協働した武道の継承	柔道・剣道・弓道・空手道といった、日本古来の武道に関しては、その文化の継承の観点から、振興を図る必要がある。既存施設を活用しつつ、振興に向けた取り組みを実施する。
		・障害者スポーツに触れる、体験する機会の提供 ・障害者スポーツにかかる競技会やスポーツ大会等の招致の検討 ・子育て世代や女性が参加しやすいスポーツ大会・イベントの環境整備 ・サインや印刷物の多言語化 ・外国人が参加可能なスポーツ団体やスポーツ教室の紹介 ・スポーツによる国際交流の推進	障害者の健康促進のため、障害者が実施しやすいスポーツ種目の普及促進を図る。また、障害者のトップスポーツ選手が活躍できる場を確保し、障害者への理解の促進を図るために、競技会や大会等の招致を検討する。 運動を行っていない人は、30代から40代で最も高く、女性の40%以上が運動は行っていないとする実態を踏まえ、小さな子どもがいても参加できるよう大会・イベントにおいて配慮を行っていこうとするものである。 くわえて、本市においても、外国籍市民の増加が顕著な状況にあり、来街する外国人が増加しているところである。これら外国人についても、健康増進のため、地域交流の促進のために、スポーツへの参加に繋げる取り組みを行おうとするものである。	
		・小江戸川越ハーフマラソン大会の開催 ・競技会やスポーツ大会等の招致の検討	スポーツ資源と観光資源の連携、交流人口の増加のための取り組みとして、スポーツツーリズムという考え方がある。本市では小江戸川越ハーフマラソンをその代表的な取り組みとして実施してきた。 これにくわえて、プロ・トップスポーツの試合や競技会、大会等を市内において開催することで、スポーツツーリズムに関する取り組みを強化しようとするものである。 また、企画や運営に関しては、スポーツコミッションによる実施も含め検討を行うものとする。	
		・プロ・トップスポーツとの連携強化 ・競技会やスポーツ大会等の招致の検討（再掲） ・オリンピックレガシー継承のためのゴルフ事業の実施	シビックプライドとは、「地域への誇りと愛着」を表す言葉である。シビックプライドの醸成は、一般に、定住者の増加や地域活性化に繋がるものと解されている。 川越をホームタウンとするプロ・トップスポーツチームの活躍は、このシビックプライドを高める要素となるものと考えられる。このためには、プロ・トップスポーツチームとの連携を深め、競技会や大会等の誘致・開催によってチームに対する愛着を深めることが、肝要となる。 また、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会でゴルフ競技の会場となった霞ヶ関カントリー倶楽部を有する本市は、この強みを生かしてシビックプライド醸成に努める必要があるものと考える。 なお、企画や運営に関しては、スポーツコミッションによる実施も含め検討を行うものとする。	
		・競技会やスポーツ大会等の招致の検討（再掲） ・デジタルやオンラインを活用した観戦機会の充実検討 ・子どものスポーツに触れる機会、観戦機会の充実と事業の周知の実施	プロ・トップスポーツの試合が行われることは、相手チームの選手やスタッフ、応援する観客の来川が期待され、相応の経済効果が想定されるところである。会場のキャパシティや機能面での課題はあるが、誘致・開催を推進しようとするものである。 また、デジタルやオンライン等、情報化やIT化が進展する状況を踏まえた対応を検討していくこととする。	
	スポーツによる地域の活性化  地域の資源を生かしたスポーツの取り組みの強化	・NPO・企業・地域団体等との連携による新規事業の実施や既存事業の充実 ・地元大学との連携による新規事業の実施や既存事業の充実 ・「スポーツビジネスネットワーク埼玉」との連携・協力 ・スポーツコミッションの設置検討 ・事業の実施におけるボランティアの活用やボランティアに参加しやすい仕組みづくりの検討	本市に存するNPO・企業・地域団体等、又は、東洋大学、東京国際大学、尚美学園大学、東邦音楽大学といった地元大学との連携を深め、事業を充実させようというものである。 また、効果的な事業を実施するための組織として、地方公団団体に加えて、いわゆるスポーツ団体（体協、総合型等）だけでなく、民間企業（観光協会、商工団体、大学、観光産業、スポーツ産業等）などが一体となったスポーツコミッショングの設立を検討するものである。 特に、地元大学には、スポーツ指導や研究に関するノウハウを有し、この成果は地域振興に有益であり、また、体育会系部活動の活躍は、シビックプライドの醸成にも繋がり得るものである。 また、現計画から引き続き、ボランティア活用についても言及する。	
		・効果的なスポーツ団体支援のあり方の検討 ・市の事業へのスポーツ団体の協力の促進 ・スポーツ団体と市民とのマッチングや、スポーツ団体同士のつながりづくりの促進 ・スポーツ功労者や優秀な結果をおさめた選手への表彰制度	各種スポーツ団体は、地域でのスポーツ活動の中核を担い、傘下団体の調整や交流の促進の役割を担うとともに、本市が主催するスポーツイベントやスポーツ教室において、重要な役割を担っている。また、スポーツ協会に加盟せずとも、スポーツに親しんでいる団体も多数存在している。 少子高齢化の進展や新たなスポーツの出現によって、既存のスポーツ団体は岐路を迎えていくものの、地域でのスポーツ活動を支える役割としてのスポーツ団体の意味合いは存在し続けるものと考えられる。 このような状況において、スポーツ団体の活性化のため、市民体育祭やスポーツ教室等の事業、効果的な補助金のありかたの検討など、市とスポーツ団体との関わり方を検討しようとするものである。	
		・指導者講習会の実施	成人が未成年か、競技スポーツカレクリエーション的なスポーツか否かを問わず、スポーツによる活動の効果を最大限に発揮するには、適切な指導者から指導を受けることが肝要となる。指導者に対する講習会を開催することにより、指導者のレベルアップを図るものとする。 また、スポーツの指導者による暴力行為が社会的に問題となっているところであるが、これにかかる言及も行うものとする。	

次期総合計画の考え方 次期総合計画（案）における施策の方向性	次期川越市スポーツ推進計画の体系		具体的な事業のパッケージ	考え方
	基本目標	施策		
文化・スポーツ施設の充実  1 文化芸術やスポーツの活動拠点として、時代のニーズを踏まえた、より魅力的に利用しやすい文化施設やスポーツ施設の整備充実を図ります。		多目的なスポーツ環境の整備	・多目的グラウンドの整備や活用方法の検討	アンケート調査の結果によると、身近な場所でスポーツができる多目的グラウンドなどの整備が最も多数を占めている。このことを踏まえると、多目的にスポーツができる環境を整備することが、市民ニーズには合致することとなる。現在、（仮称）宮元町多目的グラウンドの整備やなぐわし公園における多目的グラウンド整備の検討が行われており、これらを念頭に位置付けようとするものである。また、屋内での多目的なスポーツ利用としては、体育館や軽体育室が想定されるところであるが、これらに関して、整備検討を掲げるものである。
			・体育館や軽体育室の整備検討	
		既存のスポーツ施設にとらわれないスポーツ環境の整備	・歩道や自転車走行レーンの計画的な整備	スポーツを実施するにあたっては、体育館等、既存のスポーツ施設で実施するという印象を強く持つところであるが、居住する場所の近くにおいて、気軽にできるものであるとの発想の転換も重要となる。
			・公園等における健康遊具の設置	スポーツに「誰もがアクセス」できるという視点のもと、既存スポーツ施設の有効活用のみならず、オープンスペース等でのスポーツ活動も促していく方向性が必要と考える。
			・オープンスペースにおけるスポーツ活動の促進とルールの設定・周知	
			・ウォーキングやジョギングコースの設定や距離表示の設置	
		学校体育施設の活用促進	・学校教育や部活動地域連携・移行に支障のない範囲での学校体育施設の積極的開放	本市は、小学校が32校、中学校22校を有しており、これらを学校体育施設の開放として活用するによって、スポーツ施設の不足を充足してきた側面がある。
			・夜間照明の設置検討	これに関しては、学校教育や部活動地域連携・展開の実施に支障のない範囲において、活用を継続することが必須となる。また、空調設備の設置が進んでいるところであるが、夜間照明の設置によって、活用時間の拡大に向けた検討を行うことが必要であると考えられる。
			・使用に際しての費用負担のあり方の検討	なお、費用負担の検討によって持続可能なものとしていく必要があるものと思われる。
		アーバンスポーツの普及促進	・アーバンスポーツにかかる施設を活用したソフト事業の推進	本市は、大東B M X・スケートボードエリアを整備し、新たなスポーツであるアーバンスポーツの普及に向けた取り組みを始めたところである。セクションを追加することによって、エリアの価値を向上させ、さらなる普及促進を図るとともに、3×3コートの整備を検討することによって、新たなスポーツニーズに応えようとするものである。
			・大東B M X・スケートボードエリアの充実	
			・3×3コートの設置検討	
民間の活力が生むスポーツ施設の充実		スポーツ施設及びスポーツ機器の予防保全と適切な管理	・予防保全による計画的な修繕の実施と設備及び機器の破損時の速やかな復旧	本市の大規模スポーツ施設に関し、初雁公園野球場は老朽化が著しく、川越運動公園の陸上競技場や総合体育館も供用開始から30年を超える又は30年近い年月が経過する状況にある。
			・陸上競技場の公認取得とその継続の検討	スポーツを実施する場所としての安全性を確保するため、適切な修繕や設備・機器の破損時の迅速な復旧を行っていく必要がある。また、川越運動公園陸上競技場に関しては、20年ないし30年と予防保全を行いながら活用することを前提とするのであれば、公認取得の検討を含め、大規模な改修を実施し、スポーツの実施する環境の確保や安全性の確保を図る必要があると考えられる。
			・使用に際しての費用負担のあり方の検討（再掲）	また、修繕等のコスト増が見込まれる中で、スポーツ施設の使用料の値上げを含め、適正化を図っていく必要がある。
		快適な環境でスポーツに取り組める環境の整備	・屋外スポーツ施設の夜間照明の設置検討	昨今の夏季の高温化は著しいものがあり、夏季昼間のスポーツ実施に著しい影響を与えるものである。他方、夏季にスポーツが実施できない状況は、市民の健康増進や競技スポーツとしてのレベルの維持に悪影響を与える可能性がある。このことを踏まえ、早朝や夜間のスポーツ実施を念頭とした照明設備の充実や、体育館への空調設備の設置を進めようとするものである。
			・既存スポーツ施設のLED化	なお、これらの設置においては、コストの増加が見込まれるため、使用料の設定や実費徴収等を行おうとするものである。
			・川越運動公園総合体育館への空調設備の設置	
			・使用に際しての費用負担のあり方の検討（再掲）	
		スポーツ施設のユニバーサルデザイン化の推進	・新規スポーツ施設の新設や既存施設の大規模改修に際してのユニバーサルデザイン化の検討	障害者の健康増進や社会参加促進のため、各施設のユニバーサルデザイン化が進められるところであるが、スポーツ施設においてもこれを進めようとするものである。新規のスポーツ施設に関しては、その規模や目的に応じ、ユニバーサルデザイン化されたものとし、既存の施設に関しても順次、整備を進める旨を示したものである。
		既存スポーツ施設の戦略的な整備と活用	・競技会やスポーツ大会等の招致の検討（再掲）	既存の大規模スポーツ施設において、競技会やスポーツ大会等を開催することにより、地域の活性化やシビックプライドの醸成に繋げようとするものである。
			・音楽活動等の文化活動へのスポーツ施設の活用	また、競技会やスポーツ大会等の実施や、文化音楽活動による使用料の徴収によって、施設の収支の改善を図ろうとするものである。
			・既存スポーツ施設の改修	特に、プロ・トップスポーツの試合を実施するにあたっては、会場に相応の機能を有する必要があり、芝生や散水設備の改修、公共交通機関の充実や駐車場の拡張等も念頭に整備を検討し、財源確保の手法としてネーミングライツ制度の活用も併せて検討するものとする。
			・ネーミングライツ制度活用の推進	なお、既存施設を含めた市内大規模スポーツ施設のあり方を示すため、スポーツ施設整備・再編にかかる方針の策定を含め、検討するものとする。
			・スポーツ施設へのアクセスの改善	
		民間ノウハウを活用を考慮したスポーツ施設の新設整備	・大規模スポーツ施設の整備・再編に向けた調査検討の実施	初雁公園野球場や今後、20年ないし30年程度で建て替え等を検討することになるであろう陸上競技場、総合体育館の代替となる新施設の検討を掲げるものである。
			・国や埼玉県の動向を見据えた広域的な視点に立ったスポーツ施設の検討	新施設の検討にあたっては、民間ノウハウの活用が前提となるものと考えられる。なお、既存施設を含めた市内大規模スポーツ施設のあり方を示すため、スポーツ施設整備・再編にかかる方針の策定を含め、検討するものとする。